

「守っていききたい歴史的景観」に関する提案募集結果

○ 提案募集の概要

(1) 募集期間

平成28年8月23日（火）から平成28年9月30日（金）まで

(2) 周知方法

市民しんぶん特集記事掲載（平成28年8月1日号）、ホームページ掲載、フェイスブック専用ページ開設、募集冊子配布（景観政策課窓口、市役所市政案内所、情報公開コーナー、各区役所・支所、京都市景観・まちづくりセンター、各市立図書館、建築・不動産、観光関係団体等）、各種関係団体への説明 など

(3) 「守っていききたい歴史的景観」についての提案数

応募総数：113通 提案数：270件

1 眺めの種類ごとの提案数

眺めの種類ごとの視対象の提案数は、下表のとおりであった。

眺め分類	提案数
寺社	119件
通り	57件
山や川	83件
寺社以外の資産	9件
見下ろし	2件
合計	270件

2 行政区ごとの提案数

行政区ごとの視対象の提案数は、下表のとおりであった。

行政区	提案数	行政区	提案数
北区	24件	下京区	8件
上京区	12件	南区	3件
左京区	52件	右京区	22件
中京区	21件	西京区	10件
東山区	49件	伏見区	36件
山科区	8件	分類不可	25件

【寺社関連（寺社が視対象・寺社の参道・寺社の境内）】

○ 八坂の塔（法観寺）（7件）

No.005	八坂の塔（法観寺）	No. 022	八坂の塔（法観寺）
視対象	八坂の塔	視対象	法観寺 八坂の塔
視点	八坂通～塔の西側	視点	八坂通
選んだ理由		選んだ理由	八坂通を上ると正面に八坂の塔が綺麗に納まって見える。
写真		写真	
No.057	八坂の塔（法観寺）	No. 093	八坂の塔（法観寺）
視対象	八坂の塔	視対象	
視点	八坂通	視点	
選んだ理由	私は寺社がまちの景観を形作るうえで「アプローチ」「参道」が非常に重要で、この接続部分が京都の景観では非常に大切ではないかとも考えている。	選んだ理由	
写真		写真	

No. 109	八坂の塔（法観寺）	No. 158	八坂の塔（法観寺）
視対象	八坂の塔	視対象	八坂の塔
視点	高台寺駐車場南	視点	八坂通
選んだ理由	北側にあるコンクリートの建物が、寧々の道から見上げると、八坂の塔の姿を遮っていて、とても残念である。何とか、撤去の方向が見えて欲しい。	選んだ理由	石畳の通りと、背景に見える八坂の塔とが良好な景観を形成している。
写真		写真	(写真なし)

No. 245	八坂の塔（法観寺）
視対象	法観寺
視点	東大路から東へ坂道を上る景観
選んだ理由	京都観光の定番である清水寺や高台寺に向かう途中にあり、これぞ京都とイメージする場所であり、周辺に近代的な建物があったらそぐわないと思うから。
写真	(写真なし)

○下鴨神社（賀茂御祖神社）（7件）

No. 073	下鴨神社（賀茂御祖神社）周辺の通り	No. 126	下鴨神社（賀茂御祖神社）
視対象	下鴨神社周辺の町並み	視対象	
視点	御蔭通り	視点	
選んだ理由	古くからある下鴨神社付近の宅地にあたる場所で、かつての景観を感じさせる。	選んだ理由	
写真		写真	(写真なし)
No. 191	下鴨神社（賀茂御祖神社）	No. 209	下鴨神社（賀茂御祖神社）
視対象	下鴨神社の糺の森（御蔭通の北・南）	視対象	下鴨神社の森
視点		視点	鴨川デルタ
選んだ理由	原生林を含む糺の森は神域に存在するにふさわしい美しさ、荘厳さをたたえ、癒しの空間、生命力の満ちた空間となっているが、工事の森を見て二度と来たくないという人もいます。北側を保全するのは当然として、南側のマンション建設は直ちに中止すべき。市民等の記念植樹の森として今後50年100年守り育てていけば森は再生し、今以上に日本で類稀な都市部にある森になる。北と南側を一帯の森として大切にしていきたい。	選んだ理由	
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)
No. 230	下鴨神社（賀茂御祖神社）	No. 259	下鴨神社（賀茂御祖神社）
視対象	糺ノ森	視対象	糺の森
視点		視点	下鴨神社
選んだ理由		選んだ理由	庭や自然の美しさは素晴らしいと思うので、後世に残していくべきだと思う。
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)
No. 266	下鴨神社（賀茂御祖神社）		
視対象	下鴨神社		
視点			
選んだ理由	市民に身近な緑がある景観。		
写真	(写真なし)		

○東福寺（5件）

No.033	東福寺	No.038	東福寺
視対象		視対象	参道の眺め
視点	通天橋の眺め	視点	
選んだ理由	緑と通天橋の奥行きが感じられる。	選んだ理由	
写真		写真	

No.058	東福寺	No.097	東福寺
視対象	東福寺塔頭をつなぐ石畳	視対象	
視点		視点	
選んだ理由	私は寺社がまちの景観を形作るうえで「アプローチ」「参道」が非常に重要で、この接続部分が京都の景観では非常に大切ではないかとも考えている。	選んだ理由	
写真		写真	

No. 238	東福寺参道
視対象	東福寺参道
視点	
選んだ理由	周辺の町並みとの一体感を守っていきたい。
写真	(写真なし)

○南禅寺（5件）

No.023	南禅寺三門	No.081	南禅寺惣門
視対象		視対象	界限の様子
視点	三門前の道	視点	南禅寺惣門の西側から瓢亭方向を見て。
選んだ理由	私は寺社がまちの景観を形作るうえで「アプローチ」「参道」が非常に重要で、この接続部分が京都の景観では非常に大切ではないかとも考えている。	選んだ理由	南禅寺門前であり、近代京都の始まりともいえる岡崎の地。過去の一時期に成された開発の嵐のなか、この惣門があるだけで、京都らしさをかろうじて保っている。保全と開発の相反する文脈をグラデーション化し、ストッパーともなる風景の例。
写真		写真	

No.085	南禅寺	No.087	南禅寺 三門
視対象	境内の眺め	視対象	市街地の眺め
視点		視点	南禅寺 三門
選んだ理由	緑の中の圧倒的な三門の存在感やせせらぎの音など、南禅寺の境内は散策すると心地良い景観がある。	選んだ理由	南禅寺の境内と京都の街、そして西山が一望できる。歌舞伎の名セリフにもなっているが、まさに「絶景かな」。
写真		写真	

No. 193	南禅寺
視対象	まち並み、桜
視点	南禅寺三門
選んだ理由	有名な演目的一幕「絶景かな絶景かな」と評された眺め。
写真	(写真なし)

○大徳寺（4件）

No.009	大徳寺大慈院	No.017	大徳寺本堂
視対象	参道の眺め	視対象	参道の眺め
視点		視点	
選んだ理由	私は寺社がまちの景観を形作るうえで「アプローチ」「参道」が非常に重要で、この接続部分が京都の景観では非常に大切ではないかとも考えている。	選んだ理由	私は寺社がまちの景観を形作るうえで「アプローチ」「参道」が非常に重要で、この接続部分が京都の景観では非常に大切ではないかとも考えている。
写真		写真	
			

No.052	大徳寺	No. 056	大徳寺境内
視対象		視対象	大徳寺塔頭をつなぐ石畳
視点	大徳寺塔頭が並ぶ道（船岡東通および高桐院北側の通り）	視点	
選んだ理由		選んだ理由	私は寺社がまちの景観を形作るうえで「アプローチ」「参道」が非常に重要で、この接続部分が京都の景観では非常に大切ではないかとも考えている。
写真		写真	
			

○二条城（4件）

No. 004	二条城	No. 128	二条城
視対象	二条城と東山のみが形づくる景観	視対象	緑、お堀、空そして空間…ここに京都の文化や芸術の源がある
視点	二条城外堀北側	視点	美福通竹屋町から東を望む
選んだ理由	城内、場外を問わず、二条城において、これ以上に静かさを保った景観は他には見られない。特に、前景の桜が咲く時期は、遠景の東山のスカイラインも明瞭であり、内外の観光客もここに足を止め、カメラにこの風景を収めている。	選んだ理由	二条城をぐるりとめぐるピラカンサの生垣の中は歴史を尊重し、景観を阻害する物が一切なく保たれているから。
写真		写真	

No. 180	二条城	No. 247	二条城
視対象	二条城	視対象	二条城を見る眺め
視点	堀川通御池	視点	堀川通から
選んだ理由	歴史的な建造物を守ると同時に、時代を変えた重要な場所であり、その歴史的な背景を継承すべき。	選んだ理由	まさに歴史の舞台となった二条城の眺めは格別である。
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)

○金戒光明寺（3件）

No.003	金戒光明寺	No.041	金戒光明寺
視対象	参道の眺め	視対象	金戒光明寺北門からの本堂に向かう道
視点		視点	
選んだ理由	私は寺社がまちの景観を形作るうえで「アプローチ」「参道」が非常に重要で、この接続部分が京都の景観では非常に大切ではないかとも考えている。	選んだ理由	
写真		写真	
			
No. 248	金戒光明寺		
視対象	金戒光明寺の塔や門		
視点	東大路から聖護院通東側の眺め		
選んだ理由	京都にはなくなりつつある落ち着いた雰囲気が残る。		
写真	(写真なし)		

○平安神宮（3件）

No.048	平安神宮	No. 145	平安神宮
視対象	参道の眺め	視対象	平安神宮・京都会館
視点		視点	平安神宮参道
選んだ理由		選んだ理由	平安神宮参道と公園, 京都会館が一体的に整備され, 歩行者が楽しめる非常に素晴らしい景観になったと思う。
写真		写真	
No. 250	平安神宮		
視対象			
視点	平安神宮の神苑		
選んだ理由	平安神宮の神苑の中から建物が見えないようにしてほしい。		
写真	(写真なし)		

○醍醐寺（3件）

No. 149	醍醐寺門前	No. 150	醍醐寺門前
視対象	松並木	視対象	風情のある建物、町並み景観
視点	醍醐寺門前の松並木 旧奈良街道沿い	視点	旧奈良街道黒門から南門（醍醐寺南側）通りの眺め
選んだ理由	世界遺産醍醐寺はもちろん、醍醐山全体の自然と寺の周辺の景観、眺めを残して欲しい。古民家など1つ1つ消えていって、また自然が壊されていることにすごくがっかりしている。	選んだ理由	世界遺産醍醐寺はもちろん、醍醐山全体の自然と寺の周辺の景観、眺めを残して欲しい。古民家など1つ1つ消えていって、また自然が壊されていることにすごくがっかりしている。
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)

No. 168	醍醐寺周辺地域
視対象	旧奈良街道・和泉町くらいまでの醍醐寺周辺地域 歴史的住宅建築
視点	旧奈良街道・醍醐新町交差点から南へ
選んだ理由	醍醐寺の門前通りになり、宇治郡醍醐村時代から中心地として近年まで発展。交通の要衝であり古くからの家並みが歴史ある風情をたたえている。
写真	

○常寂光寺（2件）

No.011	常寂光寺	No. 195	常寂光寺
視対象	参道の眺め	視対象	山に向かっての庭と背景
視点		視点	常寂光寺
選んだ理由	緑と参道の風景が美しい。	選んだ理由	静かで心が落ち着くから。
写真		写真	(写真なし)

○上賀茂神社（賀茂別雷神社）（2件）

No.016	上賀茂神社（賀茂別雷神社）	No. 198	上賀茂神社（賀茂別雷神社）
視対象	参道の眺め	視対象	上賀茂神社正面
視点		視点	御蔭橋
選んだ理由	私は寺社がまちの景観を形作るうえで「アプローチ」「参道」が非常に重要で、この接続部分が京都の景観では非常に大切ではないかとも考えている。	選んだ理由	神聖であるべき神社の正面として残念な風景である。(新)御蔭橋完成（5年後）を待つ前に、神社自体が中心になって行政・地域・学術専門家による改善を期したい。
写真		写真	(写真なし)

○法然院（2件）

No.084	法然院	No.107	法然院
視対象	法然院の境内、参道、周辺の道	視対象	
視点		視点	
選んだ理由	哲学の道から苔むした石垣と境内の緑が特長的な法然院沿いの道へ入り、樹木に包まれた静かな参道を通して、茅葺の山門をくぐると目の前に現れる白砂壇と境内の景観。この境内に至るプロセスがとても素晴らしい。	選んだ理由	
写真		写真	(写真なし)

○豊国神社（2件）

No. 106	豊国神社	No. 160	豊国神社
視対象		視対象	豊国神社と耳塚の眺め
視点		視点	正面通
選んだ理由		選んだ理由	神社と耳塚, そして正面通の豊かな木々が, 東山の緑を背景に良好な景観を形成している。
写真		写真	(写真なし)

○北野天満宮（2件）

No.076	北野天満宮	No. 182	北野天満宮
視対象		視対象	ライトアップされた北野天満宮の鳥居
視点	北野天満宮の境内	視点	今出川通
選んだ理由	北野天満宮の境内には, 数多くの見どころがある。楼門からまっすぐ北へ伸びるこの道は, 由緒もあり歩いて楽しい道である。橋上からの眺めは, 空（そら）が一杯のスカイラインが快い。	選んだ理由	
写真		写真	(写真なし)

○妙満寺（2件）

No.029	妙満寺	No.079	妙満寺
視対象		視対象	比叡山をのぞむ
視点	「雪の庭」の眺め	視点	境内からの眺め
選んだ理由		選んだ理由	
写真		写真	

○清水寺（2件）

No. 094	清水寺	No. 206	清水寺
視対象	京都タワー	視対象	京都市内
視点	境内から	視点	清水の大舞台
選んだ理由		選んだ理由	あまりにも都市化していないところが京都の良さ。
写真		写真	(写真なし)

○龍安寺（2件）

No.053	龍安寺道	No. 241	龍安寺周辺
視対象	衣笠山	視対象	龍安寺周辺
視点	龍安寺道	視点	
選んだ理由	かつて、衣笠山を境に龍安寺村があったと考えられ、都名所図会にも衣笠山が描かれていて、その関係が、衣笠山と龍安寺によって、垣間見える。	選んだ理由	
写真		写真	(写真なし)

○詩仙堂（2件）

No. 163	詩仙堂	No. 169	詩仙堂周辺地域
視対象	庭園とその背景	視対象	市街地の町並み
視点	詩仙堂 詩仙の間	視点	詩仙堂の入口
選んだ理由	緑が豊かで非常に美しい。背景の建物は全く見えないほど茂っているが、少しだけ見える明るい空に建物が見えたら台無しである。	選んだ理由	詩仙堂の緑（写真左）と駐車場の生垣（同右）と奥の山並みが重なって、緑豊かで美しい。市街地まで遮るものがなく、瓦の屋根が京都らしい。
写真		写真	

○泉涌寺（2件）

No.096	泉涌寺	No. 121	泉涌寺への参道
視対象		視対象	
視点		視点	
選んだ理由		選んだ理由	
写真		写真	(写真なし)

○智積院（2件）

No.039	智積院前	No.122	智積院
視対象		視対象	
視点	東山七条交差点から北向き	視点	
選んだ理由		選んだ理由	
写真		写真	(写真なし)

○建仁寺（2件）

No. 101	建仁寺	No. 104	禅居庵 摩利支尊天堂（建仁寺塔頭）
視対象		視対象	
視点		視点	
選んだ理由		選んだ理由	
写真		写真	

○妙心寺（2件）

No. 067	妙心寺	No. 072	妙心寺周辺の通り
視対象	南門	視対象	町屋
視点	周辺の通り	視点	妙心寺道
選んだ理由		選んだ理由	虫籠窓のある古い町屋が見られ、近代には洛中の市街地に向かって、町屋が点在しており、現在も多く残されている。
写真		写真	

○以下，提案数 1 件

No.001	粟田神社	No.002	吉田神社
視対象	参道の眺め	視対象	参道の眺め
視点		視点	
選んだ理由	私は寺社がまちの景観を形作るうえで「アプローチ」「参道」が非常に重要で，この接続部分が京都の景観では非常に大切ではないかとも考えている。	選んだ理由	私は寺社がまちの景観を形作るうえで「アプローチ」「参道」が非常に重要で，この接続部分が京都の景観では非常に大切ではないかとも考えている。
写真		写真	
			
No.008	毘沙門堂	No.010	知恩院
視対象	参道の眺め	視対象	山門
視点		視点	
選んだ理由	私は寺社がまちの景観を形作るうえで「アプローチ」「参道」が非常に重要で，この接続部分が京都の景観では非常に大切ではないかとも考えている。	選んだ理由	私は寺社がまちの景観を形作るうえで「アプローチ」「参道」が非常に重要で，この接続部分が京都の景観では非常に大切ではないかとも考えている。
写真		写真	
			

No.012	真如堂	No.014	西芳寺（苔寺）
視対象	参道の眺め	視対象	西芳寺（苔寺）の門前
視点		視点	
選んだ理由	私は寺社がまちの景観を形作るうえで「アプローチ」「参道」が非常に重要で、この接続部分が京都の景観では非常に大切ではないかとも考えている。	選んだ理由	私は寺社がまちの景観を形作るうえで「アプローチ」「参道」が非常に重要で、この接続部分が京都の景観では非常に大切ではないかとも考えている。
写真		写真	

No.015	日向大神宮	No.018	霊鑑寺
視対象	参道の眺め	視対象	参道の眺め
視点		視点	
選んだ理由	私は寺社がまちの景観を形作るうえで「アプローチ」「参道」が非常に重要で、この接続部分が京都の景観では非常に大切ではないかとも考えている。	選んだ理由	私は寺社がまちの景観を形作るうえで「アプローチ」「参道」が非常に重要で、この接続部分が京都の景観では非常に大切ではないかとも考えている。
写真		写真	

No.019	青蓮院	No.020	嵯峨地蔵院（竹の寺）
視対象	青蓮院のクスノキと神宮道	視対象	参道の眺め
視点		視点	
選んだ理由	私は寺社がまちの景観を形作るうえで「アプローチ」「参道」が非常に重要で、この接続部分が京都の景観では非常に大切ではないかとも考えている。	選んだ理由	私は寺社がまちの景観を形作るうえで「アプローチ」「参道」が非常に重要で、この接続部分が京都の景観では非常に大切ではないかとも考えている。
写真		写真	

No.024	蓮華寺	No.025	曼殊院道
視対象	参道の眺め	視対象	参道の眺め
視点		視点	
選んだ理由	私は寺社がまちの景観を形作るうえで「アプローチ」「参道」が非常に重要で、この接続部分が京都の景観では非常に大切ではないかとも考えている。	選んだ理由	私は寺社がまちの景観を形作るうえで「アプローチ」「参道」が非常に重要で、この接続部分が京都の景観では非常に大切ではないかとも考えている。
写真		写真	

No.028	天龍寺	No.030	松尾大社
視対象	山	視対象	蓬萊の庭の眺め
視点	天龍寺 境内から	視点	
選んだ理由	山が近く、花と建物との調和がとても美しい。	選んだ理由	
写真		写真	

No.031	正法寺	No.036	城南宮
視対象	西山の稜線	視対象	参道の眺め
視点	正法寺から西山の眺め	視点	
選んだ理由		選んだ理由	
	西山の稜線が美しく見える。		
写真		写真	
			
No.037	宝塔寺	No.040	八坂神社
視対象	参道の眺め	視対象	交差点祇園
視点		視点	
選んだ理由		選んだ理由	
写真		写真	
			
No.045	随心院	No.047	宗忠神社
視対象	大乘院への参道／文塚への土壁沿いの裏道	視対象	参道の眺め
視点	随心院内	視点	
選んだ理由		選んだ理由	
	どちらも時代を感じる道で、電線やアスファルトが見え無い風情ある道である。ここがもしブロックやアスファルトで整備されてしまうとお寺全体の雰囲気台無しになるので、是非とも守りたいと思う。今、映画のロケに良く使われる京都の希少なロケ地でもある。		
写真		写真	
			(写真なし)

No. 049	貴船神社	No.050	今宮神社
視対象	参道の眺め	視対象	
視点		視点	境内から
選んだ理由		選んだ理由	
写真		写真	

No.051	建勲神社	No. 055	等持院
視対象	参道の眺め	視対象	周辺の住宅
視点		視点	等持院南の道
選んだ理由		選んだ理由	比較的大きな建物が多く、かつての等持院村の風景を感じさせてくれる。
写真		写真	

No.060	八坂庚申堂	No. 062	広隆寺
視対象	八坂庚申堂	視対象	広隆寺山門
視点		視点	三条通
選んだ理由	私は寺社がまちの景観を形作るうえで「アプローチ」「参道」が非常に重要で、この接続部分が京都の景観では非常に大切ではないかとも考えている。	選んだ理由	
写真		写真	

No. 063	車折神社	No. 064	清凉寺
視対象		視対象	山門
視点	境内から	視点	通りから
選んだ理由		選んだ理由	
写真		写真	
			

No. 065	二尊院	No. 066	梅宮大社
視対象	門, 塀	視対象	
視点	通りから	視点	境内から
選んだ理由		選んだ理由	
写真		写真	
			

No.077	平野神社	No.080	蔵王堂光福寺
視対象	参道, 楼門方向を見る	視対象	蔵王堂光福寺の参道と鳥居
視点	東の鳥居から	視点	蔵王堂光福寺の森 (桂川街道から南へ桂川駅へ続く道からの眺め)
選んだ理由	いつもひっそりとした佇まいで、写真の奥にある拝殿、本殿の厳かさ、清々しさは絶品である。桜の季節だけでなく、節分祭、名月祭など四季折々の催しも豊富である。	選んだ理由	歴史ある神社がこの地にあることを知ってもらいたい。周辺地域の開発が進むなか、地元の人を始め多くの人に関心を持ってもらいたい。
写真		写真	
			

No.082	大豊神社	No.095	伏見稲荷大社
視対象		視対象	
視点	哲学の道と交差した石畳の参道	視点	
選んだ理由		選んだ理由	
写真		写真	
No. 100	恵美須神社	No. 103	新日吉神宮
視対象		視対象	
視点		視点	
選んだ理由		選んだ理由	
写真		写真	
No. 108	六波羅蜜寺	No. 123	三千院・来迎院
視対象		視対象	三千院の赤い朱雀門と石積みの道
視点		視点	通りの景観
選んだ理由		選んだ理由	
写真		写真	(写真なし)

No. 148	若宮八幡宮社	No. 156	東本願寺
視対象	若宮八幡宮社	視対象	境内からの眺め
視点	五条通	視点	
選んだ理由	坂をのぼると、鳥居の周辺に町家が連なっていて、町並みが美しい。	選んだ理由	
写真		写真	

No. 164	下御霊神社	No. 166	元慶寺
視対象	寺町通（丸太町下る）	視対象	庭と山門
視点	下御霊神社	視点	元慶寺の庭
選んだ理由	本殿の屋根・築地塀・蔵等の劣化が進んでいるが、氏子や参拝者だけでは維持・修繕費が賄えず危機的状況にある。こうした財政力の弱い寺社等を市民の財産として保全・継承するための仕組みが求められている。	選んだ理由	境内の草木が四季折々に違った姿を見せ、地域住民にとって春夏秋冬を観て感じることができる景観を構成している。
写真		写真	

No. 210	勸修寺	No. 214	正伝寺
視対象	勸修寺境内	視対象	正伝寺の石庭（比叡山の借景）
視点	勸修寺の庭園内	視点	正伝寺
選んだ理由	高速道路が境内の趣ある景観を阻害している。高速道路の要素を考慮した景観規制に見直すべきではないか。	選んだ理由	比叡山を借景とする庭のある寺院は2～3件しかなく、借景空間に高い建造物が建つことのないよう保全が必要。
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)

No. 215	竹中稲荷神社	No. 224	涼森神社
視対象	竹中稲荷神社の参道	視対象	神社と参道（境内）
視点	竹中稲荷神社の参道	視点	
選んだ理由	ある程度まとまった距離を、いくつもの鳥居が連なるという光景は、伏見稲荷大社以外では少ない。	選んだ理由	
写真	(写真なし)	写真	
No. 240	仁和寺	No. 256	勝持寺
視対象	仁和寺	視対象	京都市内（南部中心）の景観
視点		視点	勝持寺境内
選んだ理由		選んだ理由	昭和の初めごろには、境内から比叡山あたりまで望むことができたというが、現在は大原野地域内の神社境内の樹木が成長しすぎて景観を分断している。大原野地域は多くの文化人がその景観を愛した歴史的な地であり、樹木の剪定などにより往時の景観を回復できれば良い。
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)
No. 257	東寺（教王護国寺）	No. 258	源光庵
視対象	庭	視対象	庭
視点	東寺	視点	源光庵
選んだ理由	庭や自然の美しさは素晴らしいと思うので、後世に残していくべきだと思う。	選んだ理由	庭や自然の美しさは素晴らしいと思うので、後世に残していくべきだと思う。
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)

No. 263	六所神社	No. 267	京都御苑
視対象		視対象	京都御苑
視点	参道からの眺め	視点	
選んだ理由		選んだ理由	市民に身近な緑がある景観。
写真		視対象	
			(写真なし)

【通り】

○哲学の道（4件）

No.083	哲学の道	No. 135	哲学の道
視対象		視対象	
視点		視点	疏水の水辺空間と周辺景観
選んだ理由	桜の季節が有名である。四季折々に散策が楽しめる「通りの眺め」、「水辺の眺め」。	選んだ理由	疏水は京都の近代化をあらわす景観だと考え、残したいと思った。
写真		写真	(写真なし)

No. 159	哲学の道	No. 236	哲学の道
視対象	哲学の道沿いの眺め	視対象	哲学の道
視点		視点	
選んだ理由		選んだ理由	眺めが好きです。
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)

○祇園新橋（4件）

No. 021	祇園白川の巽橋	No. 088	巽橋からの風景
視対象	祇園白川の巽橋	視対象	
視点	祇園新橋通, 辰巳大明神前	視点	
選んだ理由	白川のせせらぎと緑, 周辺の歴史的建物群が, 祇園の良さを守っている。	選んだ理由	
写真		写真	
No. 179	祇園新橋	No. 212	祇園新橋
視対象	祇園新橋の町並み	視対象	祇園新橋の町並み
視点	新橋通（大和大路通と新橋の間）	視点	白川南通（巽橋と辰巳大明神の間）
選んだ理由	風情がある。	選んだ理由	白川に沿ってすだれのかかったお茶屋様式の建造物が並ぶ町並みが良い。
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)

○上七軒（3件）

No. 078	上七軒	No. 174	上七軒
視対象	北野天満宮東門方向を見る	視対象	上七軒の町並み
視点		視点	上七軒
選んだ理由	北野天満宮の東参道にあたり花街の歴史に裏打ちされた独特の雰囲気がある。無電柱の開放感も爽快である。	選んだ理由	祇園新橋のように上七軒でも古い様式の建物が建ち並んでいて、近くには北野天満宮があり、これと一体となって美しい景観を形成していると思う。
写真		写真	

No. 183	上七軒
視対象	町屋の格子からの灯りに照らされた通り
視点	上七軒の花街
選んだ理由	
写真	(写真なし)

○先斗町（3件）

No. 099	先斗町の町並み	No. 204	先斗町
視対象		視対象	先斗町の提灯
視点		視点	
選んだ理由	鴨川に面した建物から京都ならではの風情がある。	選んだ理由	
写真		写真	(写真なし)

No. 221	先斗町
視対象	昔ながらの店や石畳
視点	先斗町
選んだ理由	京都らしい町並みで歩いていて京都らしさをととも感じるため。
写真	(写真なし)

○三条通（3件）

No. 146	三条通	No. 181	三条通
視対象	ライトアップされた SACRA ビルと三条通の夜間景観	視対象	ライトアップされた近代建築と町家が連なる町並み
視点	三条富小路	視点	三条通
選んだ理由	三条通は夜は統一された街灯により、昼間とは違う雰囲気があり、その中でライトアップされている近代建築は存在感が増している。三条通の他の近代建築もライトアップをすれば、夜も素晴らしい景観になるのではないか。	選んだ理由	夜、街灯もあいまって行き交う人の流れが綺麗。
写真		写真	(写真なし)

No. 208	三条通
視対象	三条通の街並み
視点	烏丸通または河原町通
選んだ理由	レンガ造りのモダン建築が珍しく、美しいから。
写真	(写真なし)

○伏見の酒蔵（2件）

No. 157	伏見の酒蔵	No. 226	伏見の酒蔵
視対象	界隈内の通り	視対象	伏見の酒蔵
視点		視点	
選んだ理由		選んだ理由	大切な景観ではないか。
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)

○岡崎別邸群周辺の通り（2件）

No. 013	惣門から「瓢亭」あたりまでの通り	No. 059	南禅寺裏の通り
視対象		視対象	清流亭への道の眺め
視点	交差点「南禅寺前」を西入る、惣門から「瓢亭」あたりまでの通り	視点	
選んだ理由	私は寺社がまちの景観を形作るうえで「アプローチ」「参道」が非常に重要で、この接続部分が京都の景観では非常に大切ではないかとも考えている。	選んだ理由	私は寺社がまちの景観を形作るうえで「アプローチ」「参道」が非常に重要で、この接続部分が京都の景観では非常に大切ではないかとも考えている。
写真		写真	
			

○田の字地区の通り（2件）

No. 237	田の字地区内の通り	No. 242	田の字地区の通り
視対象	田の字エリア内を徒歩で散策する際の町並み	視対象	三山
視点		視点	田の字地区の通り
選んだ理由		選んだ理由	東京一極集中の是正が「まち・ひと・しごと・こころ京都創生」総合戦略で目標にされ、景観においても、東京に無くて京都にある景観要素を意識的に自覚し、その強化を行うことが、この目標実現に資する。
写真		写真	
(写真なし)		(写真なし)	

○宮川町（2件）

No. 137	宮川町	No. 141	宮川町
視対象	夜間の花街、あかりと闇のバランス	視対象	宮川町～花街
視点		視点	
選んだ理由	京都の景観スポットは、寺社が有名ですが、花街の景観も美しいと思っている。	選んだ理由	歴史的な景観と文化が表出しているもので、夜間の景観も維持されたいと考える。
写真		写真	
(写真なし)			

○岡崎文化・交流地区（2件）

No. 111	岡崎文化・交流地区	No. 155	岡崎道
視対象		視対象	美術館の東側の岡崎道に面する松、桜の並木
視点		視点	二条通と岡崎道の交差点
選んだ理由	京都市内には、歴史的景観保全修景地区や界わい景観整備地区のほか、地域の住民の皆さんの総意を集めて地区計画が定められている。このうち岡崎文化・交流地区では、優れた町並みと住民が築いてきた環境がある。	選んだ理由	朝夕、四季を通じてこの並木の美しさに心安らぐひとときを多くの人に共感してほしい。京都市民のみならず京都を訪れる世界中の人に見て感じてほしい。
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)

○以下，提案数 1 件

No.007	御室小学校前の通り	No.042	伏見京町通
視対象	仁和寺付近の塀と大内山を見る景観	視対象	伏見京町通に残る京町家
視点	御室小学校の門付近	視点	伏見区京町北 8 丁目
選んだ理由	白壁の塀は、江戸時代中期の絵図に描かれており、その面影と大内山が、江戸時代の仁和寺門前の風景を思い起こさせる。	選んだ理由	江戸時代，宇治，奈良，大坂方面と京都を結んだ街道筋の面影を残す。
写真	(写真なし)	写真	

No.043	伏見指月丘と江戸町	No.044	伏見からの醍醐路
視対象	伏見指月丘と江戸町	視対象	伏見からの醍醐路
視点	伏見区向島府道 241 号線	視点	伏見区桃山町新町
選んだ理由	室町時代より風光明媚な地として嵐山・宇治に匹敵し、貴顕の人々に愛された指月丘の片鱗を残す景観である。	選んだ理由	江戸時代，伏見町と六地藏村を往来するメインストリートの面影を残す景観である。
写真		写真	

No.046	淀美豆町内の通り	No.061	円徳院前の通り（ねねの道）
視対象	古い商家や醤油蔵が残る外観	視対象	円徳院前の石畳
視点	伏見区淀美豆町 木田醤油店前から	視点	
選んだ理由	小学生の時の通学路で、登下校時に醤油の芳醇な香りが子供ながらに印象に残っている。地元で親しまれる歴史ある醤油屋。	選んだ理由	私は寺社がまちの景観を形作るうえで「アプローチ」「参道」が非常に重要で、この接続部分が京都の景観では非常に大切ではないかとも考えている。
写真		写真	

No.069	淀から鳥羽，東寺につながる鳥羽街道の街並	No.071	大坂（京）街道
視対象		視対象	江戸時代，伏見から淀川東岸を大坂へ向かう街道の面影を残す景観
視点	横大路富ノ森	視点	三栖町
選んだ理由	江戸時代，鴨川，桂川沿いに淀へ至り，大坂につながり，京坂を往来した人々の息づかいが残る景観。	選んだ理由	
写真		写真	

No.090	裏寺町	No.098	嵐山の竹林
視対象		視対象	
視点		視点	
選んだ理由		選んだ理由	
写真		写真	

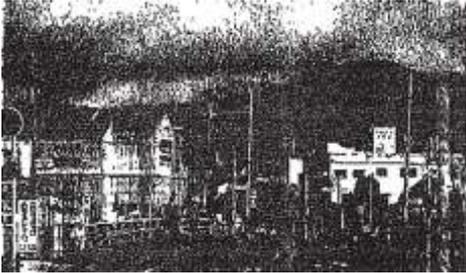
No. 110	新門前通西之町地区	No. 112	姉小路界わい地区
視対象		視対象	
視点		視点	
選んだ理由		選んだ理由	
写真		写真	
	(写真なし)		(写真なし)
No. 113	古門前通元町地区	No. 114	下木屋町地区
視対象		視対象	
視点		視点	
選んだ理由		選んだ理由	
写真		写真	
	(写真なし)		(写真なし)
No. 115	修徳元学区地区	No.116	本能寺元学区地区
視対象		視対象	
視点		視点	
選んだ理由		選んだ理由	
写真		写真	
	(写真なし)		(写真なし)
No. 117	明倫元学区地区	No. 118	有隣元学区地区
視対象		視対象	
視点		視点	
選んだ理由		選んだ理由	
写真		写真	
	(写真なし)		(写真なし)
No. 119	納屋町商店街地区	No. 125	嵯峨鳥居本
視対象		視対象	
視点		視点	通りの景観
選んだ理由		選んだ理由	
写真		写真	
	(写真なし)		(写真なし)

No. 139	中書島遊郭の路地	No. 144	安本茶舗と竜馬通の石畳
視対象	中書島遊郭建物(写真は路地の向こうにある現在の萬平を望むもの)	視対象	築140年の町家で営業している安本茶舗さんと、日中は歩行者天国になっている竜馬通商店街。
視点	伏見区東柳町付近路上	視点	油掛通より、南の方角の眺め
選んだ理由	中書島のお茶屋さんの独特な建物と路地の風情が、最近取り壊しが進み、現代に中書島遊郭の存在を伝える物が失われつつあるため。	選んだ理由	
写真		写真	
No. 151	榎木町通	No. 165	丹波街道
視対象	通りの景観	視対象	丹波街道の町並み（桂離宮南側）
視点	榎木町と油小路交差点から	視点	桂大橋
選んだ理由		選んだ理由	かつての街道沿いの景観を残す農家住宅を残したい。
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)
No. 177	壬生界わい	No. 190	産寧坂伝統的建造物群保存地区
視対象	周辺の町並み	視対象	産寧坂伝統的建造物群保存地区
視点	壬生寺に向かう坊城通	視点	
選んだ理由		選んだ理由	美しい景観は心の安らぎ・和みを与えるため。
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)
No. 229	伏見稲荷界限	No.255	上賀茂周辺の町並み
視対象	伏見稲荷界限	視対象	町並み
視点		視点	上賀茂南大路通、賀茂川より入って北方向
選んだ理由		選んだ理由	上賀茂村の文化・歴史を受け継いでいってほしい。
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)

No. 262	錦市場	No. 264	上京小川
視対象		視対象	千家がある町並みに文化を感じる
視点		視点	小川通
選んだ理由		選んだ理由	
写真		写真	
	(写真なし)		(写真なし)

【山や川】

○五山（14件）

No. 147	鳥居形送り火の景観に関して	No. 153	大文字
視対象		視対象	東山（大文字）
視点		視点	鴨川デルタ（三角州）
選んだ理由	この送り火は火のついた薪を人が運んで聖火の場所へ刺す方式で点灯されるため、近くで見ないと、その火の動く様を見ることができない。しかし近年建売住宅がその近辺に建設され、近くで見える場所が、どんどんなくなりつつある。	選んだ理由	映画やアニメの舞台、聖地であり、学生・市民の憩いの場として世界中から多くの者が集まる鴨川デルタから下鴨神社の眺めは守られているが、東山の眺めは、多くの電柱が目に入り、美しいとはいいがたい。大文字の送り火の眺めだけでなく、屋間の眺めも守って欲しい。電柱の無電柱化を進めて欲しい。
写真		写真	
No. 171	五山の送り火（舟形）	No. 175	五山の送り火（舟形）
視対象	五山の送り火（舟形）	視対象	五山の送り火（舟形）
視点	バス停「神光院前」通路東側	視点	船岡東通
選んだ理由	ここからしか船の全てが見える所はない。テレビ放送でも必ず下部が欠けている（山の高さが低い、面が西を向いている）。	選んだ理由	小さい頃から当たり前のように見てきたが、最近ビルやマンション等が建ち見えづらくなってきたため。
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)
No. 178	大文字	No. 188	比叡山や大文字山等の山並み
視対象	大文字山	視対象	比叡山や大文字山等の山並み
視点	御所（京都御苑内の京都御所南側）	視点	賀茂街道（賀茂川辺り）
選んだ理由	五山送り火の日以外にも、雪の日や新緑の季節など四季を感じられる。御苑内の木の剪定も含めて眺めを守ってもらいたい。	選んだ理由	美しい景観は心の安らぎを和みを与えるため。
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)

No. 203	大文字	No. 218	大文字
視対象	大文字	視対象	大文字
視点	賀茂川	視点	西大路通
選んだ理由		選んだ理由	高い建物が建つと見えなくなるから。
写真		写真	
	(写真なし)		(写真なし)
No. 220	五山の送り火	No. 222	大文字
視対象	五山の送り火	視対象	大文字
視点	四条通	視点	京都御所寺町御門
選んだ理由		選んだ理由	夏の風物詩のため。
伝統		写真	
写真			
	(写真なし)		(写真なし)
No. 223	五山の送り火	No. 228	大文字
視対象	大文字, 妙法, 舟形	視対象	岡崎・南禅寺界限の東向きの背景となる大文字山
視点	賀茂川(北大路から北山辺り)	視点	岡崎・南禅寺界限
選んだ理由	夏の京都において人の生活の一部となっていると感じるが、それがなくなるのは寂しく思う。	選んだ理由	岡崎・南禅寺界限が醸し出す落ち着いた雰囲気とそこから南禅寺, 永観堂と背景の山と一体となって形成する景観は絶品である。そして、明治に建てられた多くの近代建築物と邸宅から醸し出される岡崎・南禅寺界限の落ち着いた雰囲気を守ってほしいと思う。
写真		写真	
	(写真なし)		(写真なし)
No. 233	五山の送り火	No. 243	右大文字
視対象	五山の送り火で大文字と舟形を眺める	視対象	右大文字を見たい
視点	上賀茂橋	視点	西大路通の丸太町以北の交差点から
選んだ理由	子供の頃から見ているので、変わらずこの先もそれを拝んで御先祖様を送りたいので。	選んだ理由	以前はどこでもみえていたがほとんど見えなくなった。
写真		写真	
	(写真なし)		(写真なし)

○鴨川・賀茂川（12件）

No.054	鴨川運河	No.068	鴨川運河
視対象	鴨川運河と煉瓦	視対象	鴨川運河と煉瓦敷きの道
視点	深草直達橋南1丁目	視点	鴨川運河にかかる横縄橋
選んだ理由	鴨川運河を作るとき、団栗、音羽川、七瀬川を交差するように算とした。近代化の技術が残る煉瓦積みの流れに映えて美しい。	選んだ理由	明治27年に完成した鴨川運河。明治26年から大正8年まで煉瓦を製造した岸和田煉瓦株式会社。両者の出会いは必然だったのかもしれない。この場所に敷かれた煉瓦約の6000片のほとんどに岸和田煉瓦の社章が刻まれている。
写真		写真	

No.075	鴨川	No.127	鴨川
視対象		視対象	鴨川と北山の織り成す豊かな自然
視点	川端通	視点	北大路通と鴨川の交差するところを北側に向いて
選んだ理由	涼しくなり自転車で走っていても緑が多い景色は気持ちいい。	選んだ理由	京都はこの豊かな緑と水によって守られているのだなど、改めて実感したから。
写真		写真	

No. 131	鴨川運河	No. 132	鴨川運河
視対象	いものや橋と常盤橋と伏見桃山城と琵琶湖疏水鴨川運河	視対象	常盤橋と上板橋と琵琶湖疏水鴨川運河
視点	堀詰町	視点	堀詰町常盤橋付近／新町 13 丁目上板橋付近
選んだ理由	<p>(1)京都の近代化産業遺産琵琶湖疏水鴨川運河の終点堀詰町。(2)近年まで400年以上続いていた国松鑄造所の名残の橋「鑄物屋橋」。(3)明治から昭和のはじめにかけての伏見酒造りの最盛期に金鷄正宗によって架けられた「常盤橋」。(4)明治、大正時代の往時の伏見城を想起させる昭和の模倣城「伏見桃山城」。</p> <p>(1)～(4)の伏見の歴史遺産が同時に見えるポイントで、両橋のデザインを含めて、琵琶湖疏水とともにあった伏見市民の生活を後世に守り伝えるべき景観だから。</p>	選んだ理由	<p>(1)京都の近代化を象徴する歴史遺産である琵琶湖疏水鴨川運河に架かる、(2)明治から昭和のはじめにかけて伏見酒造りの最盛期に金鷄正宗に寄付によって架けられた「常盤橋」から望める、(3)モダンなデザインの上板橋と、(4)鴨川運河のゆったりとした流れを楽しめるポイントで、両橋の現在のデザインを含めて、琵琶湖疏水とともにあった伏見市民の生活を後世に守り伝えるべき景観だから。</p>
写真		写真	

No. 133	鴨川運河	No. 154	北山と賀茂川
視対象	津知橋と、近鉄高架鉄橋と旧線レンガ橋脚／琵琶湖疏水鴨川運河と伏見インクライン遺構のレンガ造りの発電所排水口	視対象	北山および賀茂川河畔の緑
視点	住吉町付近	視点	北大路橋のあたり
選んだ理由	<p>京都の近代化を象徴する歴史遺産である琵琶湖疏水鴨川運河に架かる落ち着いた石造りのデザインの津知橋から望める、近鉄高架鉄橋と旧線レンガ橋脚と鴨川運河の向こうに伏見インクライン遺構のレンガ造りの発電所排水口を楽しめるポイントで、現在津知橋のデザインを含めて、琵琶湖疏水とともにあった伏見市民の生活の変遷を語るものとして後世に守り伝えるべき景観だから。</p>	選んだ理由	<p>第一に美しい(100万大都市の中でこんな美しい自然景観を有する都市は他にない。)第二に山と川と都市の関係(京都の基本的都市構造、都市機能)を認識することができる。</p>
写真		写真	(写真なし)

No. 170	鴨川と北山	No. 197	賀茂川上流域
視対象	鴨川と北山	視対象	桜並木（北山大橋北方左岸，御菌橋北方右岸）
視点	北大路橋	視点	賀茂川上流域
選んだ理由	個人的に一番好きな鴨川の景色。鴨川の両側に多くの木々が植え、西側には京都府立植物園，正面の北側には北山があるなど鴨川一面が緑に覆われ，ベンチで本を読む人，ランニングする人もいてとてもリラックスできる景色になっている。	選んだ理由	しはん桜，なからぎの紅しだれの衰弱対策も必要だが，左記の桜並木は賀茂川の新名所になりつつある。
写真		写真	(写真なし)

No. 207	鴨川	No. 231	鴨川
視対象	等間隔カップル	視対象	鴨川
視点	四条大橋の鴨川の眺め	視点	
選んだ理由		選んだ理由	市民に身近な緑がある景観。
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)

○白川（7件）

No.026	白川（一本橋）	No.027	白川
視対象		視対象	
視点	華頂通北側の白川	視点	仁王門通下る白川
選んだ理由	白川の清流, 両岸の緑の柳, 石の橋が構成する景観が美しい。	選んだ理由	シンプルな橋が白川の景観にマッチしている。
写真		写真	
No. 092	白川（一本橋）	No. 161	白川
視対象		視対象	北方向の白川
視点		視点	華頂通から
選んだ理由		選んだ理由	柳が川岸に並んでいる風景が美しい。柳の後ろに見える建物も配慮があるとよりよい眺めになると思う。
写真		写真	(写真なし)

No. 172	白川沿い	No. 225	白川沿い（三条通から川端通）
視対象	枝垂れ柳と白川の流れ	視対象	白川沿い（三条通から川端通）
視点	京都華頂大学近くの華頂道に架かる橋の上	視点	
選んだ理由	川端四条から白川沿いに辰巳橋を経て平安神宮に至るコースは、お気に入りの散歩道、兩岸の車の流れが遮断できれば言うことはない。市川海老蔵さんが自転車に乗りながら台詞を練習しておられる姿も見られる。	選んだ理由	眺めが好き。
写真		写真	(写真なし)

No. 235	白川
視対象	白川沿いの町並み
視点	橋からの眺め
選んだ理由	白川と知恩院さんとの調和が風情を感じる。
写真	(写真なし)

○濠川・宇治川派流（6件）

No. 032	宇治川派流	No. 120	濠川
視対象		視対象	
視点	であい橋から	視点	
選んだ理由	水運で発展した伏見の歴史を感じられ、桜の花も美しい。	選んだ理由	
写真		写真	(写真なし)
No. 134	濠川と酒蔵	No. 138	濠川と酒蔵
視対象	都鶴の酒蔵と濠川(琵琶湖疏水)	視対象	元北蔵があった風景
視点	土橋町土橋上付近／土橋町聚楽橋付近	視点	榊形町榊形橋上／伏見区丹波橋町丹波橋上
選んだ理由	京都の近代化を象徴する歴史遺産である琵琶湖疏水に架かる、旧市電鉄橋だった聚楽橋から土橋とその先にある小さな酒蔵（都鶴）の風景。最近老朽化が激しく、崩壊の危機にあり、早く手を打たないと永遠にこの琵琶湖疏水の畔に酒蔵がある景観が失われてしまうため。	選んだ理由	大倉本家が「月桂冠」を登録商標する前の年に、元々この地にあった伏見板橋二丁目酒造で借蔵醸造を始め、明治40年に買収して「北蔵」と改称したものがこの地にあった。大蔵省醸造試験所技官、鹿又親がこの北蔵で酒造りの調査と研究を行って飛躍的に醸造石数を伸ばし、翌年東京帝国大卒の濱崎秀を採用され、さらに次の年の大倉酒造研究所の設立に繋がったという、伏見の近代酒造りの産業歴史遺産であった。
写真		写真	
No. 213	宇治川派流	No. 268	濠川
視対象	宇治川派流	視対象	琵琶湖疏水（濠川）
視点	伏見区三栖向町の肥後橋	視点	榊形町榊形橋上／伏見区丹波橋町丹波橋上
選んだ理由	四季の花々が美しい。	選んだ理由	琵琶湖疏水は伏見城の外濠であり、京都の近代化を象徴する産業歴史遺産。
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)

○三山（6件）

No. 176	東山の山並み	No. 202	西山, 北山
視対象	東山の山並み	視対象	西山, 北山
視点	京都駅の新幹線ホーム	視点	桂川河川敷
選んだ理由	京都に帰って来たとほっとする(高さ規制等の効果)。	選んだ理由	
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)
No. 219	西山	No. 232	東山, 北山
視対象	西山の稜線	視対象	東山や北山を眺める景観
視点	JR 桂川駅, 東側, R201へ続く道	視点	街中から
選んだ理由	1日に1度は, 山の稜線を眺めている。京都の歴史に三山はかかせない。現在, 北山, 東山は歴史的景観として注目されているが, 西山に関しては, あまり言われていない気がする。駅ができて便利になるのは住民にとってはプラスだが, 高層マンションが建つと山々が見えなくなる。人の気持ちは中心市街地居住者も郊外に住む者も同じ。この景観を守りたいので, 高さ規制を望む。	選んだ理由	
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)
No. 244	三山	No. 251	東山
視対象	東西北, どの地点で3方を見ても山が見える美しい眺め	視対象	東山
視点	市内全域	視点	円山公園
選んだ理由	どこにいても自然が身近に感じられ, 京都にすることが実感できる。	選んだ理由	景観を守っていきたい。
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)

○高瀬川（4件）

No. 070	高瀬川	No. 089	高瀬川
視対象		視対象	
視点	新大手橋	視点	
選んだ理由	近世以来の木造の酒蔵（手前）と近代四季醸造を実現したRCの酒蔵（奥・白の建物）。伏見の酒造業の幅の広さを見せ、かつ高度成長期を代表する景観。	選んだ理由	
写真		写真	
No. 102	高瀬川（四条～五条）	No. 167	高瀬川
視対象		視対象	果物植物が多く戦時中の食料事情が分かる並木と、高瀬川の流れの景色。
視点		視点	五条通から七条通の高瀬川沿い並木
選んだ理由		選んだ理由	
写真		写真	

○北区中川地区（集落）（4件）

No. 184	北区中川地区	No. 185	北区中川地区
視対象	北区中川	視対象	磨き丸太加工場の小屋の風景や町並み
視点	北区中川	視点	中川北山町
選んだ理由	かつて林業で成り上がったこの地域には、独特な建築や北山杉を利用した生活の工夫が見られ、歩いていて面白い。さらに、増築・改築にも集落の中で同型の方策がとられているように感じたので、それを柔軟に受け入れ、大規模開発をしないくらいの規制があると良い。	選んだ理由	
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)
No. 186	北区中川地区	No. 187	北区中川地区
視対象	北西町並みと森	視対象	北山杉とその関連した生活文化の風景
視点	中川集落内の南東の高地の道路	視点	京都市北区中川北山町
選んだ理由		選んだ理由	中川で目にした光景は類を見ないほど生活と生業が一体となって景色となっているものだった。長い年月をかけて構築されてきたこの文化を眺め続けることができたなら、より広い視点で景観を考えるための良い例になるのではないかと。
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)

○広沢池（北嵯峨）（2件）

No. 246	広沢池，北嵯峨	No.261	広沢池，嵯峨野
視対象	広沢池を含めた山並み，田園及び桜並木の景観	視対象	嵯峨野の田園風景
視点	広沢池，北嵯峨	視点	広沢池付近
選んだ理由	市街地から近いところで京都の原風景が見られるため。	選んだ理由	あれだけ広大な敷地に田畑が広がる風景は今の市内では珍しいため。
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)

○大原野（2件）

No. 074	大原野	No. 239	大原野
視対象	大原野のひまわり畑	視対象	西京区大原野に残る田畑と西山
視点		視点	大原野の南茶屋交差点
選んだ理由	<p>一筋歩くと昔ながらの田畑があり、日本人の『懐かしい郷愁』が、田舎の故郷を持たない人にも感じる。立派な建造物が有るわけでもなく、ただ、変わらない自然風景があるだけだが、宅地開発で高い建物がない、見晴らしは立派な歴史風景だと思ふ。</p>	選んだ理由	<p>ここ数年で、地域にそぐわない外観を持った建物などがチラホラ見受けられる。ハイキングを楽しむ人も増え、大変のどかでしかも歴史のある地域なので、今後も地域住民や観光客にとっても、安らげる場所として有り続けて欲しいと願っている。</p>
写真		写真	(写真なし)

○以下，提案数 1 件

No. 035	丹波橋より伏見桃山城	No.091	渡月橋
視対象	丹波橋より伏見桃山城を見る景観	視対象	
視点	榊形町榊形橋上／伏見区丹波橋町丹波橋上	視点	
選んだ理由	この地は伏見の歴史が凝縮されたランドマークの密集した場所であり，現在その殆どが建て替えと改修で大きく姿を変えたが，今後の保全，改修，街並み整備計画の中で，可能な限り，旧来の姿に近づける努力を続けるべき。町屋風の連なった軒庇の景観だけに固執せず，特例措置がなくても，伏見の町に正しい酒蔵のデザインが再現可能な様，条例の改正を望む。	選んだ理由	
写真		写真	
No. 105	泉川	No. 124	大原の里
視対象	泉川と妙の字が見える風景	視対象	
視点	泉川	視点	
選んだ理由	下鴨神社の境内を流れる泉川と，昔，泉川の上流で水を管理していた松ヶ崎との関係が垣間見える。	選んだ理由	菜の花，コスモス，彼岸花が綺麗である。
写真		写真	(写真なし)

No. 142	三栖の太閤堤の巨木群	No. 143	酒蔵と濠川に至る線路跡
視対象	濠川の西岸になっている太閤堤	視対象	
視点	土手の上より東の方角の眺め	視点	通りより、西の濠川の方角の眺め
選んだ理由	濠川の西岸になっている太閤堤に、エノキ、ムクノキ、ケヤキなどニレ科の巨木が数十本並んでいる。	選んだ理由	左は北川本家の酒蔵。石畳になっているのはかつての造船所の跡地。濠川に至る線路跡が石畳になっている。
写真		写真	

No. 162	岡崎疏水沿い	No. 173	小倉山と保津川
視対象	疏水沿いの眺め	視対象	小倉山と保津川
視点		視点	嵐山大悲閣千光寺階段下りすぐの市道から
選んだ理由	疏水の豊かな水と疏水沿いにある豊かな木々が東山の山並みと調和した良好な景観。近代建築物とも調和している。	選んだ理由	100年以上無かった黒い木の塀が建ち、眺めが悪くなった。小倉山とトロッコ列車が見え、保津川の流れも美しく塀に邪魔されることなく眺めが良かったのが、眺めが悪くなってしまった。
写真	(写真なし)	写真	

No. 189	加茂大橋	No. 194	堀川
視対象	加茂大橋からの眺め	視対象	川、建物
視点	加茂大橋	視点	堀川
選んだ理由	美しい景観は心の安らぎを和みを与えるため。	選んだ理由	水辺の眺めに加えるべき。
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)

No. 196	柗野ダム	No. 199	賀茂川の源流域
視対象	柗野ダム	視対象	賀茂川の源流域
視点	賀茂川上流域	視点	府道京北線（旧雲ヶ畑街道）
選んだ理由	ダムと桜も素晴らしい景観である。	選んだ理由	賀茂川の注目地域は府中央部（三条・四条中心）になりがちだが、上・中・下流そして源流域の特徴を育てていきたい。
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)
No. 200	西鞍馬街道	No. 201	東海自然歩道
視対象	ゴルフ場, 京産大建築群, 本山（もとやま）	視対象	東海自然歩道
視点	西鞍馬街道（都計道路幡枝葵森線）	視点	北区各所
選んだ理由	歴史的に有名な鞍馬街道を近代的に蘇生させる。京産大生の主要通学路（含スクールバス）であり、観光客も増加する中、かつての自然景観を時代に合わせ復活させたい。	選んだ理由	自然とはいえあまりにも不自然さ、補修不足が目立つが、歩く人達に来て通って良かったと実感させたい。東京から兵庫県に及ぶが、京都市域に限って推進したい。
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)
No. 205	嵐山	No. 211	愛宕山
視対象	嵐山	視対象	愛宕山
視点	桂川の橋（桂大橋, 上野橋）	視点	桂川
選んだ理由		選んだ理由	美しい景色
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)
No. 216	花山天文台	No. 227	桂川
視対象	西側（東山トンネル方面）、花山にある花山天文台の眺め	視対象	桂川や野菜畑
視点	醍醐地区から	視点	久我橋
選んだ理由	昭和初期に建設され、現在も大学生の教育や研究、一般の方向けの見学やNPO 法人が開催される観測会が行われている花山天文台は山科、醍醐地区から毎日日常の一部のように見える。当たり前に見えているその眺めは、本当は当たり前ではないのかもしれない、景観物というだけでなく、ずっと使い続けられる天文台であってほしいと願いを込めて守っていきたい。	選んだ理由	昔は和だったのに、住宅の建設が進んで、どんどん緑が少なくなってきている地域だから。
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)

No. 249	東山（比叡山）	No. 252	広沢池と山
視対象	東山 比叡山を見る眺め	視対象	北の山を見る
視点	鴨川から	視点	広沢池から
選んだ理由	京都らしく、他に真似できないもの。	選んだ理由	眺めがきれいなので残してほしい。
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)
No. 253	深泥池と山	No. 254	宝ヶ池と周りの山
視対象	北の山を見る	視対象	宝ヶ池と周りの山
視点	深泥池から	視点	国際会館から
選んだ理由	景観が悪くならないようにしてほしい。	選んだ理由	景観を残してほしい。
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)
No. 260	大覚寺, 大沢池	No. 265	高野川
視対象	大沢池	視対象	高野川
視点	大覚寺境内から	視点	
選んだ理由		選んだ理由	市民に身近な緑がある景観。
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)
No. 269	榊形橋	No. 270	丹波橋
視対象	榊形橋	視対象	丹波橋
視点	榊形町榊形橋上／伏見区丹波橋町丹波橋上	視点	榊形町榊形橋上／伏見区丹波橋町丹波橋上
選んだ理由	榊形橋は昭和5年、伏見市の時代に初めて架橋され、当時隆盛を極めていた伏見の近隣酒蔵の多額の寄付により、当時の伏見市役所への利便性のために架けられた橋。 当時の開通式の盛大に渡り初めが行われた写真が残されており、当時の疏水が、市民の生活に密着していた様子がうかがわれる。	選んだ理由	丹波橋は秀吉の時代から伏見城外濠に架けられていた橋で、現在の補修前の丹波橋は、大正15年当時としては珍しい、鉄筋コンクリート橋として架橋されたものである。
写真		写真	

【寺社以外の資産】

○SACRAビル（2件）

No. 136	SACRAビル	No. 140	SACRAビル
視対象	昼間だけでなく夜の景観も美しい近代建築物	視対象	三条通～SACRAビル
視点	旧明倫小学校	視点	
選んだ理由	SACRAビルは京都の近代化をあらわす景観だと考え、残したいと思ったものである。	選んだ理由	京都の近代化を表す建築物として評価すべき。通りの眺めを構成し、夜間景観にも配慮されている。
写真	(写真なし)	写真	

○以下，提案数 1 件

No. 006	料理旅館（町家）	No. 034	無鄰菴
視対象	料理旅館（町家）	視対象	東山への眺め
視点	東洞院正面通下ル	視点	無鄰菴から
選んだ理由	東山，嵐山界限のような多くの観光客が訪れる地域だけでは無く，中心街の普通生活道路にももう少し力を注いで頂きたい。 下京区東洞院正面下ル東本願寺の門前界限の料理旅館は，この界限では唯一残る町屋となった。	選んだ理由	冬の庭と山との対比が美しい。
写真		写真	
No. 086	南禅寺水路閣	No. 129	栗原邸
視対象	境内 水路閣の眺め	視対象	栗原邸を見る景観
視点		視点	御陵大岩の琵琶湖第1疏水第10号橋（通称：黒岩橋）の周辺から撮影したもの
選んだ理由	南禅寺の境内で明治時代の最先端のデザインが，歴史的な風景になっている。京都の時代の積み重ねが感じられる景観。	選んだ理由	日本の近代技術史上，重要かつ希少性の高い建築遺産と土木遺産の両方を見ることができる。琵琶湖疏水は日本の近代土木史屈指の近代土木遺産で，近接する天智天皇陵の森林の景観も合わせて守りたい。
写真		写真	(写真なし)

No. 130	旧喜多邸	No. 152	旧明倫小学校
視対象	駒井家住宅と、その南側に建つ旧喜多邸、さらにその南側に建つ小林・古川邸の3つの住宅が建ち並ぶ景観	視対象	校舎内の廊下、スロープ、スチールサッシの窓
視点	北白川伊織町の白河疏水通からの景観	視点	旧明倫小学校
選んだ理由	京都における閑静な住宅街である北白川の地にあつて、戦前から戦後にかけて3人の著名な建築家によって設計され建設された3つの優れたデザインの住宅が建ち並んでいるため。木立の中に静かに佇む個性あふれる住宅群の景観である。	選んだ理由	かつて番組小学校として発生し、昭和一桁代に京都市営繕課により設計された校舎が、今もなお使いつづけられ、現代のニーズ、用途に対応し、また使う人もかつての校舎をうまく使っている様子が見られるから。
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)

No. 192	奥溪家
視対象	奥溪家（玄関の長屋門）
視点	仁和寺街道天神通
選んだ理由	
写真	(写真なし)

【見下ろし】

No. 217	市内見下ろし	No. 234	大原野（見下ろし）
視対象	京都市内の町並みと愛宕山などの山並み	視対象	京都市中心部や東方向への眺め
視点	大文字山	視点	大原野エリア
選んだ理由	京都の地形、変化を非常にわかりやすく見て取れる場所だから。	選んだ理由	
写真	(写真なし)	写真	(写真なし)